「論集」　内　規

原稿は日本語または英語を使用しすること。日本語論文は横書きでも縦書きでも可。以下、横書き原稿、縦書き原稿に分けて説明する　注 1)。

［1］横書きの場合

1. 原稿はＡ4 サイズの用紙を用い、40×35 字で印字する。（奨励：明朝体 10.5pt）
2. 本文内の各節章の見出しにつける番号は全角アラビア数字１.２.３.・・・とし、その下の節には１-１.１-２.・・・を用いる。最初に「はじめに」、最後に「おわりに」を置いてもよい（番号は付けない）。
3. 句読点は全角の「、」「。」を用いる。括弧は全角とする。
4. 数字の表記
   ・数字は、熟語など特別な場合を除き半角のアラビア数字を用いる。4 桁表記以上となる場合は、コンマ(,)を用いる。
   ・分数は「1/2」とせず、「2 分の 1」と書く。
5. 年号の表記
   ・年号は原則として西暦を用いる。
   ・必要に応じて、西暦の後に元号、仏暦、イスラム暦等を丸括弧に入れて併用してもよい。
6. 度量衡の単位は、原則として記号（m, kg など）を用いるが、執筆者が必要と考える場合は「キロメートル」等の表記をしてもよい。
7. 注と文献リストを別にする。注は論文末とし、文献リストの本文、注等における表示は（著者名 発行年：ページ数）とする。
8. 注は本文中の該当箇所の右肩に上付き文字で順に(1)(2)(3)…と番号をうち、番号は本文全体の通し番号とし、注は論文末にまとめて記載する。
9. 図表は、図、表それぞれに番号をうち、本文中に挿入箇所を指示する。 表記は図と表、画像に分け、それぞれに 1、2、3・・・と番号をふる。図表の出典や出所は、「出典」に表記を統一。丸括弧で「(出典)」と書く。注や出所の表記についても、本文の記述に準じるものとする。日本語の場合は句点 (。) で、欧米言語の場合はピリオドで終える。また、注や出所で参考文献に言及する場合、単行本、論文、資料集、白書などは本文同様、タイトル（出版年: xx-xx）という表記にし、書誌情報の詳細は参考文献リストに記す。
10. 本文および注の参考文献表記
    (1)引用文献は、本文内の引用注として表記する。括弧を使い本文に挿入し、出所を明記する。
    例：　（村上 2017：254）

(2)新聞、雑誌記事、インターネットに掲載されている資料で冊子体でない資料、政府公報や官報、インタビュー注は、原則的に注に明記する。
(3)外国人の論文を引用する場合、本文に引用する著者名は日本語表記を併記する。
(4)参考文献リスト
本文と注記で用いたすべての文献を「文献」として本文の最後に一括して表示する 。
書誌情報の表記は以下の通りとする。

和文著書
編著者名（半角スペース）（発行年）（半角スペース）『書名--副題』出版社。

和文雑誌論文
著者名(半角スペース）（発行年）（半角スペース）「論文名-- 副題」『雑誌名』巻数（号数)、頁範囲（56-59 のように表記)。

和文書籍中の論文
著者名、(半角スペース）（発行年）（半角スペース）「論文名-- 副題」(編者名『書名--副題』出版社)、頁範囲（56-59 のように表記)。

和文翻訳書
編著者名（発行年）(半角スペース） 『書名--副題』(訳者名、原著は〇年発行）出版社。
例：ジャン.ハロルド.ブルンヴァン（1988)『消えるヒッチハイカー – 都市の想像力のアメリカ-』(大月隆寛・菅谷裕子・重信幸彦訳、原著は 1981 年発行）新宿書房。

外国語書籍
編著者名（発行年）(半角スペース） 書名：副題（イタリック体）, 発行地 ： 出版社.
例 ： Tambiah, S.J.(1970) Buddhism and the Spirit Cults in North-east Thailand, Cambridge : Cambridge Unidersity Press.

外国語の雑誌論文
著者名（発行年）, “論文名: 副題,” 雑誌名,巻数(号数), pp.〇-〇.
例 ： Embree, John F. (1950) “Thailand – A Loosely Structured Social System,”American Anthropologist, 52(2), pp. 181-193.

外国語の書籍中の論文
著者名（発行年）, “論文名：副題,” 編者名 ed., 書名: 副題, 発行地:出版社, pp. 〇-〇.
例：Johnson, D.Gale (1992) “ Economic vs. Nonecnomic Factors in Chinese Rural

Development,”in Peter Calkins et al eds., Rural Development in Taiwan and Mainland China, Colorado: Westview Press,pp. 25-39.

ウェブからダウンロードした文献

例：日本国外務省(2018)「平成 30 年度開発協力重点」2019 年 2 月 28 日、https://www.mofa.go.jp よりダウンロード。

(5) 参考文献の表示順序

・参考文献は原語別に整理して表示する。日本語、英語、その他の外国語（アルファベット順）の順に表示する。
・同一の編著者・機関が複数続く場合は、発行年次の古いものから併記し、2 つ目の文献以降の編著者・機関名は「――」で表示する。
・参考文献はできるだけ日本語の常用漢字で表記する。
・欧文以外の言語については、適宜邦訳をつける。

インターネットなどからダウンロードした資料の引用

(1)インターネットからダウンロードした論文、統計資料等は、参考文献に記載する。著者、タイトル、発行地、発行年の記載方法は、通常の論文や単行本と扱いを同じものとする。ダウンロードやアクセスした日付、アドレスもあわせて記載する。

例：NSO(National Statistical Office) (2017) Summary of the Labor Survey in Thailand : January 2017, Bangkok:NSO（2019 年 2 月 28 日最終アクセス。http://web.nso.go.th/en/survey/data_survey/200260_ summary_Jan_2017.pdf よりダウンロード）.

(2)インターネットからダウンロードした資料で、論文や報告書など参考文献リストに記載されない資料は、原則として文中で処理する。その場合、アクセスした日付やアドレスもあわせて記載する。

(3)インターネットからダウンロードした資料に関する上記の原則は、本文および表にも原則として適用するものとする。

［2］縦書きの場合

1. 提出原稿は横書きと同じく Word を使用して作成し、A4 サイズ用紙に 40 字×35 行とする。（奨励：明朝体、10.5pt）

2. 本文見出しにつける番号は、一、二、三・・・とし、その下の節には (一) (二) (三)・・・を用いる。最初に「はじめに」、最後に「おわりに」を置いてもよい (番号は付けない)。
3. 句読点は全角の「、」「。」を用いる。括弧は全角とする。
4. 英数字の表記
数字は原則漢数字を用いる。文中に使用する英語は横書き表示とする。
5. 年号の表記
・年号は原則として西暦（漢数字表記）を用いる。
・必要に応じて、西暦の後に元号、仏暦、イスラム暦等を丸括弧に入れて併用してもよい。
6. 度量衡の単位は、原則として「キロメートル」のようにカタカナ表記とする。
7. 注と文献リストを別にする。注は論文末とし、文献リストの本文、注等における表示は（著者名 発行年：ページ数）とする。ただし、専攻分野によっては、文中注は馴染まないことがあるので、その場合、引用文献情報も脚注に記入する。書誌情報の書き方は横書きに準じる。
8. 注は本文中の該当箇所の右肩に上付き文字で順に(1)(2)(3)…と番号をうち、番号は本文全体の通し番号とし、注は論文末にまとめて記載する。
9. 縦書き論文に図表を挿入する場合も横書き書式同様に、図、表それぞれに番号をうち、本文中に挿入箇所を指示する。 表記は図と表、画像に分け、それぞれに 1、2、3・・・と番号をふる。図表の出典や出所は、「出典」に表記を統一。丸括弧で「(出典)」と書く。注や出典の表記についても、本文の記述に準じるものとする。日本語の場合は句点（。）で、欧米言語の場合はピリオドで終える。また、注や出所で参考文献に言及する場合、単行本、論文、資料集、白書などは本文同様、タイトル（出版年: xx-xx）という表記にし、フル・タイトルは参考文献リストに記す。
10. 本文および注の参考文献表記
(1)引用文献は、本文内の引用注として表記する。括弧を使い本文に挿入し、出所を明記する。
例：(村上 二〇一七：二五四)
(2)新聞、雑誌記事、インターネットに掲載されている資料で冊子体でない資料、政府公報や官報、インタビュー注は、原則的に注に明記する。
(3)外国人の論文を引用する場合、本文に引用する著者名は日本語表記を併記する。
(4)参考文献リスト
本文と注記で用いたすべての文献を「文献」として本文の最後に一括して表示する 。
書誌情報の表記は以下の通りとする。

<u>和文著書</u>
編著者名（半角スペース） （発行年）（半角スペース）『書名--副題』出版社。

和文雑誌論文

著者名(半角スペース)(発行年)(半角スペース)「論文名--副題」『雑誌名』巻数(号数)、頁範囲(五六-五九のように表記)。

和文書籍中の論文

著者名、(半角スペース)(発行年)(半角スペース)「論文名--副題」(編者名『書名--副題』出版社)、頁範囲(五六-五九のように表記)。

和文翻訳書

編著者名(発行年)(半角スペース)　『書名―副題』(訳者名、原著は〇年発行)出版社。

例：　ジャン・ハロルド・ブルンヴァン(一九八八)『消えるヒッチハイカー – 都市の想像力のアメリカ』(大月隆寛・菅谷裕子・重信幸彦訳、原著は一九八一年発行)新宿書房。

太字

外国語書籍

編著者名(発行年)(半角スペース)　書名：副題(イタリック体)，　発行地：出版社.
＊縦書きに横書き表示で記入する。

例：　Tambiah, S.J.(1970) Buddhism and the Spirit Cults in North-east Thailand, Cambridge : Cambridge Unidersity Press.

外国語の雑誌論文

著者名(発行年)，“論文名: 副題,” 雑誌名,巻数(号数), pp.〇-〇.　＊縦書きに横書き表示で記入する。

例：　Embree, John F. (1950) “Thailand – A Loosely Structured Social System,”American Anthropologist, 52(2), pp. 181-193.

外国語の書籍中の論文

著者名(発行年)，“論文名：副題,” 編者名 ed., 書名: 副題, 発行地:出版社, pp. 〇-〇.
＊縦書きに横書き表示で記入する。

例：　Johnson, D.Gale (1992) “ Economic vs. Nonecnomic Factors in Chinese Rural Development,”in Peter Calkins et al eds., Rural Development in Taiwan and Mainland China, Colorado: Westview Press,pp. 25-39.

ウェブからダウンロードした文献

例：日本国外務省(二〇一八)「平成 30 年度開発協力重点」二〇一九年二月二八日、https://www.mofa.go.jp よりダウンロード。＊URL は横書き表示で記入する。

(5) 参考文献の表示順序

・参考文献は［文献］とし、言語別に整理して表示する。日本語、英語、その他の外国語（アルファベット順）の順に表示する。

・同一の編著者・機関が複数続く場合は、発行年次の古いものから併記し、2 つ目の文献以降の編著者・機関名は「――」で表示する。

・参考文献はできるだけ日本語の常用漢字で表記する。

・欧文以外の言語については、適宜和訳をつける。

インターネットなどからダウンロードした資料の引用

(1)インターネットからダウンロードした論文、統計資料等は、参考文献に記載する。著者、タイトル、発行地、発行年の記載方法は、通常の論文や単行本と扱いを同じものとする。ダウンロードやアクセスした日付、URL もあわせて記載する。＊URL は横書き表示で記入する。

例：NSO(National Statistical Office)（二〇一七）Summary of the Labor Survey in Thailand : January 2017, Bangkok:NSO（二〇一九年二月二八日最終アクセス。http://web.nso.go.th/en/survey/data_survey/200260_summary_Jan_2017.pdf よりダウンロード)。

(2)インターネットからダウンロードした資料で、論文や報告書など参考文献リストに記載されない資料は、原則として文中で処理する。その場合、アクセスした日付やアドレスもあわせて記載する。

(3)インターネットからダウンロードした資料に関する上記の原則は、本文および表にも原則として適用するものとする。

注 1）但し執筆者の専門分野により、これ以外の様式での執筆を必要とする場合は、例外を認める。あくまでも『論集』における共通書式の目安とする。